

平成28年度 島根県立出雲商業高等学校 学校評価

評価項目	評価領域	中期目標	短期目標	成果・評価指標(数値化)	資料	自己評価		学校関係者評価		改善策
						達成状況	評価	考察	評価	
1 学習指導	学業向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業の充実を図る	アクティブラーニングの研究と推進	年間一人5回以上の授業参観	教務部記録	年間参観者数 のべ123人(2月末) 年間公開授業時数 20時間(2月末) 目標はほぼ達成見込みだが、他教科の授業参観推進が課題	B	・家庭学習の定着の対応策として、宿題を多くして負担をかける方法も同ったが、これも課題研究のように主体的に創造性をもって意欲深(取り組める)テーマであればよいと思う。併せて、今ひとつの課題である各種検定の合格率向上も絡め、日常的に個別指導を強化され、家庭学習の習慣化につなげるなど、引き続き改善方策の検討実施をお願いする。 ・アクティブラーニング、わかりやすい授業と、よく取り組まれている。一方、家庭学習、検定合格等は松島などとも他校と競い合っている。昨年と比べると改善はされている。何のための家庭学習かが生徒に伝われば結果も変わってくると思われる。	B	・各人が計画的に授業五見を実施することを推奨し、自己目標評価シートに項目として盛り込む。 ・ICT機器の研修を充実させ、年間を通して機器の活用状況を把握する。
			ICT機器を利用した授業の研究	ICT機器の整備	3教室にプレゼンテーション実習システムを設置(70インチ一体型インタラクティブボード、実物投影機、スピーカー等) 機器の活用については次年度に研究予定	A				
			わかりやすい授業を目指す	生徒授業評価の平均1点台	生徒授業評価	教員の学習指導スキルの評価(問3~8)平均1.80(前年1.89) 目標は達成	A			
			家庭学習が定着するよう支援する	平均2時間の学習時間の定着 アンケートの評価項目 ・家庭学習の習慣が身についているか	学習時間調査・保護者アンケート 生徒アンケート	2学期の家庭学習時間 平日 91分(1学期 96分) 休日114分(1学期136分) 生徒の自己評価 肯定的評価 44% 保護者の評価 肯定的評価 42% 家庭学習が定着している状況ではない。学習の内容、量両面で検討が必要	C			
			検定合格者の向上を図る	各種検定合格者の向上	検定結果	簿記検定2級 合格者68.0%(前年61.0%) 情報処理検定2級 合格者91.7%(前年72.9%) 前年よりも向上。今後簿記2級全員取得が目標	B			
一つ上を目指す資格取得に挑戦するよう支援する	上位級資格取得状況の向上	検定結果	ITパスポート取得者数 6名(前年9名)日簿簿記 2級取得者数 5名(前年2名) 今後さらなる向上が目標	B						
商業教育	学業向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業の充実を図る	学科の特性を生かしながら、特色ある教育課程を検討する	平成30年度入学生教育課程の再編成		6月~2月学科教科主任会、運営委員会、職員会議で検討 ・週31単位へ増単位 ・商業科目の種類化 ・商業科目の増単位	A	・平成28、29年度入学生への教育課程を修正し、30年度から円滑に実施できるようにする。 ・ビジネスマナー、出商デパートの意義が生徒に理解されることを意識して実施計画を立てる。		
			ビジネスマナー教育の充実を図る	アンケートの評価項目 ①生徒は気持ちのよい挨拶、礼儀正しい言葉遣いをしているか(保護者) ②社会に出て役立つ実践力育成の指導が行われているか(生徒) ③ビジネスマナー教育が身につく指導が行われているか(教職員)	保護者アンケート 生徒アンケート 教職員アンケート	①保護者 肯定的評価 89% ②生徒 肯定的評価 97% ③教職員 肯定的評価 88% 保護者の評価 肯定的評価 42% 高い評価を得た。	A			
			店舗体験型販売実習(出商デパート)の充実を図る	アンケートの評価項目 ①購買意欲促進の行動ができたか ②動労効果を覚えているか ③他の生徒のことを考えて行動したか	生徒アンケート	①肯定的評価 72.3% ②肯定的評価 81.5% ③肯定的評価 83.4% 狙いはほぼ達成	A			
			学科の特性に基づいて、生徒の個性を伸ばし、専門教育の深化に努める	店舗体験型販売実習(出商デパート)の充実を図る	アンケートの評価項目 ①購買意欲促進の行動ができたか ②動労効果を覚えているか ③他の生徒のことを考えて行動したか	生徒アンケート	①肯定的評価 72.3% ②肯定的評価 81.5% ③肯定的評価 83.4% 狙いはほぼ達成		A	
外部連携	学業向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業の充実を図る	オープンスクール参加中学生へのアンケート	①オープンスクールは参考になったか アンケートの評価項目 ②本校ホームページを見ているか	オープンスクールアンケート 保護者アンケート	①中3生 大変参考になった 75.3% ②保護者 肯定的評価 27% ホームページの充実、PRが課題	C	・ホームページは、私はさほど閲覧頻度を重要だと思わないが、もし上げたいなら生徒達の動向のアップなどは、生徒も親も見ると思う。 ・須山木材との連携のような産学連携は、地元企業への興味や職業観の深化につながり有意義である。今後とも進めたい。		
			地域・PTA・同窓会の協力体制を推進し、教育活動を推進させる	創立100周年記念事業実行委員会の開催 募金活動の開始		100周年記念事業実行委員会を6回開催 11月から募金活動開始	A			
			地域の各種団体と連携を図り、地域の活性化に取り組む	IT人材育成事業、木育環境教育、楽天IT学校等の実施	受講人数、実施状況	IT人材育成事業 17名 成果発表会 木育環境教育 14名 合板一枚・作品コンペ努力賞 楽天IT学校 19名 楽天IT学校甲子園参加	A			
2 特色ある学校	学業向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業の充実を図る	社会人として通用する挨拶マナー・身だしなみ・ふるまいの指導を充実させる	アンケートの評価項目 ①生徒は気持ちのよい挨拶、礼儀正しい言葉遣いをしているか ②生徒は交通マナーを守っているか	保護者アンケート	保護者 肯定的評価 ① 89% ② 88% アンケート記述欄に交通マナー希薄の指摘が2件。指導の継続が必要	B	・不登校の生徒がおらず、自転車通学についても問題なく感じている。すばらしいことである。 ・交通安全指導、安全点検等を計画的に実施する。 ・特別支援教育コーディネーターを2名体制とし、効果的な校内研修を企画する。		
			教育相談を充実し、問題を抱える生徒の早期発見と対処に努める	生徒支援委員会の開催 スクールカウンセラー制度の活用 アンケートの評価項目 ・本校は悩みを相談する機会を設けているか	学校保健委員会資料 保護者アンケート	生徒育成委員会 7回 スクールカウンセラーへの相談 11件 保護者の評価 肯定的評価 68% 悩みを抱える生徒の実数は少ない現状ではあるが、保護者への広報は充実させることが必要	B			
			安全・安心な学校を目指し、教育環境の整備に努める	安全点検の実施	学校保健委員会資料	安全点検を年2回実施 2月の指摘事項 39件(対応済又は対応中28件、修繕要求または検討中11件)	A			
			自己の目標に向かって意欲的に学ぶ生徒を育てると共に適切な進路指導に努める	生徒の進路適性の把握に努める	進路希望調査	進路希望調査結果(人数)の推移 [1年生] 4月 進学69 就職26 未定43 12月 進学75 就職32 未定30 [2年生] 4月 進学95 就職44 未定19 12月 進学93 就職48 未定18 [3年生] 1月 進学102 就職51 その他4 進学マナープラン講演会参加者 18名 アンケート結果 生徒 肯定的評価 ①94% 保護者 肯定的評価 ②68% ③73% 進路未定の人数は減少したが、情報提供の機会さらには充実が必要。	B			
進路指導	学業向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業の充実を図る	望ましい職業観の育成に努め、学年段階に即したキャリア教育で計画的な指導に努める	講演会参加人数	1月 進学102 就職51 その他4 進学マナープラン講演会参加者 18名 アンケート結果 生徒 肯定的評価 ①94% 保護者 肯定的評価 ②68% ③73% 進路未定の人数は減少したが、情報提供の機会さらには充実が必要。	B	・生徒が就職、進学してから後悔しないよう、これらも各種の指導をお願いしたい。 ・保護者にも地元企業を知ってもらう場がある。どうしても大手企業、公務員へとつながりたため。			
			進路情報の提供や個別指導により、就職・進学の際の指導を充実させる	進路希望調査	進路希望調査結果(人数)の推移 [1年生] 4月 進学69 就職26 未定43 12月 進学75 就職32 未定30 [2年生] 4月 進学95 就職44 未定19 12月 進学93 就職48 未定18 [3年生] 1月 進学102 就職51 その他4 進学マナープラン講演会参加者 18名 アンケート結果 生徒 肯定的評価 ①94% 保護者 肯定的評価 ②68% ③73% 進路未定の人数は減少したが、情報提供の機会さらには充実が必要。	B				
			進路適性の把握に努める	進路希望調査	進路希望調査結果(人数)の推移 [1年生] 4月 進学69 就職26 未定43 12月 進学75 就職32 未定30 [2年生] 4月 進学95 就職44 未定19 12月 進学93 就職48 未定18 [3年生] 1月 進学102 就職51 その他4 進学マナープラン講演会参加者 18名 アンケート結果 生徒 肯定的評価 ①94% 保護者 肯定的評価 ②68% ③73% 進路未定の人数は減少したが、情報提供の機会さらには充実が必要。	B				
部活動・生徒会活動等	学業向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業の充実を図る	部活動を重視し、その振興に努める	部活動加入率の向上	生徒指導部資料	2月時点での加入率 1年生 89.8% 2年生 92.5% 3年生 98.7% 次年度も高い加入率を維持するために、学年間の差の理由の考察が必要。	B	・図書館利用、貸出冊数で自己評価が人となるよう取り組んでいきたい。それが生徒の学力、進路に結びつく指導してほしい。 ・読書の推奨と図書館利用の活性化を重点目標に盛り込む。		
			望ましい人格形成を目指す特別活動への積極的な参加と学校の活性化を図る	貸出冊数、図書館利用時数の増加 生徒アンケート ①自分の学習に図書館を利用できるか ②図書館は利用しやすいか ③本を読むことは楽しいか	図書視察部資料 生徒アンケート	貸出冊数 1人1.6冊(昨年1.8) 授業での図書館利用 114時間(昨年127) 生徒 肯定的評価 ① 56% ② 70% ③ 84% 図書館を利用した授業は活発だが、生徒が自発的に利用することの推進が必要。	B			
			生徒会活動の活性化に努める	生徒主体の活動への移行	インターハイのPR、地域、施設でのボランティア活動を計画的、継続的に実施。	A				
人権同和教育	学業向上	商業高校として基礎学力の定着と向上を目指し、授業の充実を図る	人権意識の高揚に努め、心身ともに健康で文化的な学校生活が送れるよう支援する	生徒アンケートの評価項目 ①人権問題に対する理解が深まったか	生徒アンケート	アンケート 肯定的評価 94% 高い評価だった。	A	・福島原発のいじめ問題、トランプ大統領の入国制限等、時々の話題から人権への教育をお願いしたい。		
			保護者に対する啓発と連携を推進する	保護者アンケートと広報の発行(年3回) ①部落差別は今もあるか ②学校での同和教育は必要か	保護者アンケート	アンケート 肯定的評価 ① 53.9% ② 64.9% 結果報告も含め広報を発行(7、12月)	A			
進路保障の支援に努める	人権同和教育課等との連携	人権同和教育課指導主事、人権同和教育専任教員の訪問、連携 2回	A							